

衛生史編纂資料

第百十六師團軍醫部

第一 終戦前

一、部隊行動ノ概要

昭和十九年十一月以降、部隊行動概括スレバ左ノ如シ

イ、秋冬季五箇月間ノ警備訓練、作戦準備

ロ、春季一箇月間半ノ主トシテ山岳地ニ於ケル作戦（進攻及退却戦）

ハ、夏季三箇月間ノ警備、築城、訓練

此ノ間六月現役初年兵及補充兵計約四〇〇〇名ヲ受領ス

二、衛生勤務ノ概要（軍醫部業務ノ概要ヲ含ム）

(一) 一般方針

衛生業務遂行ノ方針トシテ左ノニ莫ク重視セリ

ノ指揮系統ト緊密ナル吻合ヨリ施策ノ強力ナル實施

一之ヲ為執リタル手段、主ナルモノ左ノ如シ

0844

1. 命令ニヨル衛生施策ノ實行
2. 衛生部員ノ隊長輔佐ニ関シ自覺ノ振起、兵科
及各部ノ密接ナル運繋
3. 中隊長等隊長ニ對シ教育
4. 作戰間軍醫部員ノ參謀部勤務

II 成果

1. 衛生施策ノ整齊ナル實施、特ニ主トシテ上級幹部
ノ之ニ對スル關心ノ昂揚ハ所期ノ成果ヲ收メ得タリ
2. 一般ニ施設材料、時間的余裕等ニ乏シキ現況
ニ於テ各種衛生施策ノ成否ハ一般將兵ノ衛生的
態如何ニ依存スル所大ナル比シ之ガ態ノ實情ハ
逐年低下ノ途ヲ辿リ命令、部署等徹底スト
雖モ其ノ實行ハ皮相ニシテ保育、防疫等ノ如キ簡
單且必須ナル指導事項ニ於テ數年倦ムズ及復

0845

スルモ尙且殆ド進歩向上ノ跡ヲ認メ得ル狀況ナリ

III 將來ニ對スル意見

1. 各箇人ノ衛生的觀念及態等ハ入隊當初ニ於テ教育、訓練、内務等ト相俟テ確實深刻ニ銘刻セザレバ爾後ニ於テ補備矯正ハ殆ド不可能事ニ近シ
 - ロ、中級以下幹部ノ衛生ニ對スル識得關心ハ稀薄ニシテ特ニ内務班長ノ指導能力不足及監督ノ疎漫ハ成果ノ阻碍ノ大ナル原因ヲ形成ス
 - ハ、戰時ニハ軍隊ニ於テ十分ニ基礎教育ニ期待シ得カル狀況ナレバ戰時ニ於テ軍隊衛生ノ良否ハ國民教育如何ニ左右セラル、所極メテ大ナリ
2. 衛生部員ノ専門識能ノ補備向上及其ノ職責ニ對スル自覺ノ振肅
1. 之ガ爲執リル手段

0846

- イ、新任軍醫、同衛生下士官等ニ對シ師團ニ於テ反復
集合補備教育及教育査閲ノ實施
- ロ、軍醫部長又ハ軍醫部員ハ屢々聯隊及野戰
病院ノ巡視シ計畫的乃至機會ヲ捉ヘ衛生勤務
殊々診療業務ノ直接指導
- ハ、衛生部員ニ對スル部報

II 成果

- イ、同一事項ニ関シ反復教育ノ結果戰場必須ノ事
項ニ就キテノ識得ノ向上位ニ精神要素ノ切揚ハ
或程度ノ成果ヲ收メタリ
- ロ、部隊病院共確タル勤務上ノ系統組織ヲ欽キ或
ハ累次ノ作戰ニヨル粗笨ナル氣風ノ是正ニ乏シク又ハ
未熟者ニ多數補充(特ニ軍醫予備員出身者及特別
補充ヨリ任官セル衛生下士官)等不利ナル條件ト相俟

0847

作業間識得向上ノ氣運ニ乏シノ特ニ諸般ノ業務
處理、勤務上ノ重点把握實行、陸軍衛生材料ノ理
解活用等ニ関スル識能ハ依然低調ナリ

(二) 部隊行動ニ基ク衛生勤務

1. 駐留間衛生機関ノ運用

三箇ノ野戦病院ハ師團ニ於テ統一運用シ三乃至四箇所ニ
於テ開設セシメ衛生隊ハ常ニ集結セシム一般部隊ト同一任
務ニ服セシムル外患者ノ輸送ハ師團野戦病院間ノ局地
輸送ニ止メシメタリ

軍醫部勤務班(給水及檢索業務擔任)ハ四月至五箇ノ給
水班ヲ分派セシムル外遺時師團防疫工作班、巡回檢索班
ヲ編成シ師團内防疫及防疫ニ任セシム

2. 作戰間衛生機関ノ運用

春季實施セル山岳作戰ニ於テハ各野戦病院ヲ三箇縱隊

ニ夫々分屬シ其ノ縱隊指揮官ヲシテ運用セシメタリ

衛生隊ハ之ヲ三分シ前同様ニ三縱隊ニ配屬ス師團衛生

隊ノ編成ハ擔架一中隊車輛一小隊ヲ基幹トスル兵力ナリ

シヲ以テ之ヲ三分スルトキハ各縱隊配屬兵力夫々約十五箇

擔伍ニ過^ギサレバ其ノ不足ハ若力ノ徵用ヲ以テ補ヘリ

軍醫部勤務班ハ六箇ノ給水班ヲ編成シ之ヲ各聯隊ニ配

屬セシメタリ

野戰病院ハ本作戰間機動ノ主トセシメテ病院ヲ開設セシ

ムルコト少ク僅カニ態勢整備ノ爲ノ短期駐軍間ノミニ於テ

開設セシメ以テ部隊携行患者ノ收容位ニ輸送擔任部隊

ヘノ引継ニ任セシメタルニ止マリ其他ハ患者輸送間ノ救護

援助ヲナサシメタリ從ツテ師團内衛生機関ノ衛生勤務ハ

隊編隊所ニ於ケル收療及總患者千名ヲ突破セシ人員

ノ輸送ヲ主要事項トセリ然ニテ衛生隊ノミニテハ之ガ輸

送ヲ到底ニ負擔シ得カリシ爲師團輜重、兵站輜重及獨
立輜重等ヲ悉ク之ニ援助セシメタリ

(三) 戦力増強上特ニ實施セル衛生勤務

一 作戰後患者ノ現地治療促進方策

一 實施方法

作戰後師團ハ不圖^モ原駐地ニ歸還シ同地ニハ後方兵
站病院開設シアリタルヲ以テ作戰間損耗セシ戦力ヲ
急速ニ現地ニ於テ回復セシムル爲作戰間ニ已ニ兵站病
院ニ後送シタル患者中ヨリ現地治療見込者ヲ選出シ
再ビ師團野戦病院ニ送送セシメ之ヲ現地治療促進
シ圖ルコトニセリ之ガ爲師團野戦病院ヲ夫々各步兵聯
隊ニ配屬シ其ノ全カヲ開設セシメ、兵站病院ヨリ轉送シ来
レル患者ヲ夫々其ノ所屬ノ配屬野戦病院ニ收容セシメ
タリ又野戦病院ハ其ノ收容患者中ニ症状固定シ榮

0850

養ノ恢復ヲ待テ自然ニ治療スベキ者ヲ努メ其ノ所屬
隊ニ早期退院セシメ骨肉ノ至情ニヨル指導及戰友ノ着
護ヲ給養ノ充實等有利ナル條件下ニ治療機轉
ノ促進ヲ圖レリ

II 成果

野戰病院ト該被配屬部隊ト其ノ收容患者ト通ジ
關係緊密トナリ部隊ヨリ病院ニ對スル給養、宿營上
ノ援助、患者ニ對スル精神的指導等良好ナリキ
早期退院者ニ就テモ部隊ハ病院ニ比シ一般ニ給養良
好環境亦健康的ニシテ各種輕作業ニ應ジシムル共
ニ軍紀上ノ利点ト相俟テ治療經過ヲ促進セシメ得メ
リト認ム此ノ結果兵站病院ヨリ轉送ヲ受ケタル患者
約六百名ヲ二箇月間ニ殆ド總テ治療セシメタリ

之、防疫、防瘧、保育ニ關シ戰力增强上實施セシ事項ハ次節

0851

回歸熱ノ項

ニ記述ス

三、防疫、防癘、保育

(一) 防疫

一、秋冬季集結間ニ於ケル回歸熱流行

一 經過

十一月下旬某聯隊、初發シ十數名ノ罹患者アリタルニ當
初「マリア」又ハ「不明」熱性病等トシテ看過シタルニ因リ
蔓延シ更ニ開設中ノ收容野戰病院ニモ移入シ院内續
發シ兼シ約四箇月間ニ師團内ニ於テ發生患者數約ニ
五〇名ニ達セリ

ii 對策

一、各隊毎ニ桶、釜、トドラム罐等ヲ利用シ應用製作セル蒸
氣又ハ煮沸消毒裝置ヲ以テ被服ノ濕熱消毒ヲ反
復ス

坊、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000

口. 罐詰ノ空罐等ヲ利用工夫シ中ニ炭火ヲ入レ被服ノ
アイロンニ代用トシテ撲滅ニ資セリ

ハ. 常ニ各人毎ノ殺虱ヲ獎勵シ特ニ患者送院時部隊
及收容病院ニ於ケル驅虱ヲ徹底セシメリ

III 防疫上遭遇セル困難

1. 師團ハ作戰直後新占據地域ニ集結セル状況ナレバ
被服寢具ノ追送ナク爲ニ兵員ノ大多數ハ現地薄團
ヲ利用シタルヲ以テ之ヨリ全般的ニ虱ノ執拗ナル侵襲
ヲ受ケタリ

口. 當時悪天候續キタルト全員交換被服ナカリシ爲被
服ノ蒸氣(煮沸)消毒ハ其徹底甚ク困難ヲ来セリ

IV 將來ニ對スル意見

蚤虱等害虫多キ地方ニ於テ特ニ秋冬季節作戰後寢
具ノ速カナル追送補給ハ極メテ必要ナリ 被服ハ下着類

各人ニ着以上ノ保有シ交換ニ資セシムルヲ有利トス

常德作戰時ト本湘桂作戰時トヲ比較スルニ兩者ノ環

境の諸條件ハ略々相似スルモ前者ニ在リテハ作戰後部

隊ハ舊占據地域ニ歸還シ一齊ニ被服寢具ノ更新ヲナ

シ得タレバ一名ノ回歸熱患者ヲモ發生セザリシニ反シ後者

ハ作戰後營々トシテ驅氣ニ回歸熱ヲ予防ニ努力セシモ尚且

前記ノ如ク流行ヲ来セシハ好箇ノ對照ナリ

2. 春季作戰間ノ防疫

1. 方針

重莫ク赤痢、腸チフス等腸管系傳染病ノ予防ニ指回

シ之ヲ爲特ニ防疫給水ノ可及的普及並ニ宿營地毎ニ

防疫便所設置ノ徹底ヲ圖レリ

II 實況

1. 作戰間發生セル急性傳染病患者ハ赤痢約二十名腸

チラスニ名、流行性脳脊髄膜炎ニ名コシテ患者數少
數ナリシハ、既往作戰ニ於ケル經驗ト軌ヲ一ニセリ

口、衛生清口水機ハ師團ニ於テ丙七具ヲ携行シ宿營間
ノ給水ニ終始スルヲ避ケ努メテ路上給水及火線給水
(搬水囊ニ依ル)ヲ實施スル如ク指導シタルモ之ハ給水
量ハ極ノ小局部限ラレ廣汎持續的ナル補給ヲ實
施スルニ至ラズ

ハ生水飲用ノ悪習ハ依然跡ヲ絶タズ特ニ負擔量ト
行軍實施トノ間ノ調和ヲ欲クルトキハ之ヲ制止スルコト
至難ナルコトアリ

〔事例〕

反轉間、某時期ニ於テ携行糧秣ヲ七日分以上ニ變更
シタル爲ニ負擔量急激ニ増加シタルノミナラズ之ニ應ズル
歩度及休憩ノ適正ヲ欲キシニ依リ部隊ノ後尾ニ於テ著

0855

(参考)

シテ隊列亂レ兵ハ遂ニ水ノ在ル所(小川、水溜、水田ヲ問ハズ)ハ我勝チニ蝟集シ甚シキハ腹這トナリテ直接口ヲ水源ニ附クル者アル状況ヲロシタルモ之ヲ制止スルニ由ナカリシカバ遂ニ大休止ヲ實施シ防疫給水ヲ行ヒタルトアリ

ニ、宿營地ニ於ケル野廁ノ設置ハ普及度概ホ八割ト推定スルモ其ノ構造適正ナルモノハ寥々タル状態ニシテ多クハ形式的ニ流レ從ツテ野糞モ亦多ク散見セリ(野糞ハ特ニ苦カシクシ)

川教訓

イ、部隊配屬給水班ノ路上給水ハ行軍部署宜シキ得バ實施可能ニシテ火線給水モ亦熱意存スル所實行可能ナリト雖モ規制コアリテハ部隊大部ノ全需要ヲ充足シ防疫上認ムベキ成果ヲ擧グル為ニハ更ニ大ナル輸送

力及兵力ヲ必要トス師團現編成裝備ニテハ其他諸
般ノ作戰上ノ諸要求ニ調和セシムコト困難ナリ

ロ一般ニ浙贛作戰當時迄ハ作戰間苦力ヲ使用スルコト
寡少ナリシモ常德作戰以降特ニ湘桂作戰以來ハ部隊
ノ編成裝備戰場ニ適合セザルモノアルヲ以テ之ヲ補足
スル爲又一面漸次兵ノ素質耐乏ノ精神共ニ低下シタ
ルニ因リ次第・多數ノ苦力ヲ使用スルコトナリシカバ自然
作戰間ノ環境衛生ノ保持改善ニ大ナル障碍トナレリ

ハ作戰間傳染病患者發生數ハ統計上少數ニ表ハルヲ
常態トスルモ是畢竟狀況ニ基リ外見上ノ事象ニシテ作
戦後ニ却ツテ作戰ニ基因セリト認めラレ、傳染病患者
シ多發スルコト多キヲ以テ作戰間徒ニ現在ノ患者數ニミ
ヨリ樂觀的ニ判断スルハ禍害ヲ後ニ貽ス虞アリ

3. 夏季集結間ノ赤痢防疫

i 患者發生狀況

赤痢患者發生數ハ月概ホ一五〇—二〇〇名ニシテ入院患者ノ三割強ヲ占メ總人員ノ二—三%ニ達セリ

細菌性、アイバ性及混合型ノ區分ハ病原檢索ノ徹底セザリシ爲明確ヲラズト雖モアイバ性最モ多ク混合型及細菌性之ニ亞ガタルモノ如シ

ii 防疫指導及實施狀況

1. 重兵ヲ衛生施設ノ改善(特ニ防疫便所及食器消毒施設ノ普及徹底)ニ指向シ併セテ中國人ヨリ購入セル飲食物ノ部隊再消毒(加熱消毒、果實ハ熱湯消毒)ヲ確實ニ實施セシム

口、防疫便所ノ普及度ハ依然不良、便所殆ト凡テ新設シタルモ其構造良好ナルモノハ三割以下ニ過ギズ
食器消毒ハ普及度ハ割以上ニシテ實施方法モ亦概ホ確

貴ナリ中國人販賣飲食物ノ個人購入ハ依然多ク部隊
ニ於ケル再消毒ハ全般的ニ未カ確實ナラス
手洗装置ハ多クハ清水又ハ煮沸後ノ水ヲ器ニ盛リテ兵
室入口等ニ備ヘアリ多數ノ混用ヨリ却テ手指ニ菌附
着ノ媒介源タラシムル危險アルニ付流走式装置ヲ工
夫スル如ク指導セリ某部隊ニ於テハ灰汁(木灰ヲ約倍量
ノ水ニテ浸出セル液ノ上清ヲ使用)ヲ消毒液代用トシ利
用シ中隊ノ端末ニ至ル迄徹底シタル所アリ是同部隊が昭
和十七年春揚子江流域地區ニ駐屯中、チフス性疾患ノ
隊内蔓延ヲ来シ之ガ防遏ニ苦心ノ結果衛生施設ニ各
種創意工夫ト之ガ普及徹底ヲ見己ニ其一部が部隊
ノ良キ傳習ト化シタルモノナリ之ハ同部隊附高級軍醫
前環境不良ノ當時ヨリ引續キ不変ニシテ常ニ此方面
ニ熱心不撓ノ指導ヲ續ケタルコトモ與リテカアルモノ、

0859

如シ一般ニ師團ハ衛生部員ノ交流少ク隊内高級軍醫、
三年以上同一職ニ在ルニ稀ナラズ而シテ各聯隊ノ衛生状況
ヲ觀ルニ夫々多少ノ特色ヲ有シ其ノ特色ハ多年同職ニ在
リタル聯隊内高級軍醫ノ信念ノ方針等ヲ反映シアルモト
觀取セラレ衛生部員持續數年間ノ努力ハ終ニ一隊ノ該
方面ニ動カシ得ルモノアリト信ズルヲ得ベシ
食器者汚消毒等ハ比較的普及實施困難ナル事項
ナルモ其ノ普及度高キハ之亦師團ニ於テ約七年間時ト所
トヲ論セス常ニ同一事項ヲ指導シ来リタル結果ナルベキモ
反之防疫便所ノ普及度不良ナルハ便所ノ構築ニ關シ數
年來指導一定セカリシニモ其因スルモノアリ

三三、疫學的事實

イ、夏季集結間赤痢發生狀況ハ各部隊間ニ於テ一様ナク
特ニ多發セシハ歩兵第百九聯隊及野砲兵第百十二聯

隊ニシテ其ノ原因ト思料セラルル事項左ノ如シ

(1) 兵出身地ノ地方的特性及兵種ニヨル性能ハ防護上弱

臭シ形成スルコト(歩兵第百九聯隊ハ京都出身ナリ)

野砲兵聯隊ハ行軍及行動不馴ナリ)

(2) 赤痢多發セシ部隊ノ給水源ハ多ク清冽ナル湧水ニシ

テ却ツテ水ニ對シ油断ヲ生ジタルコト

(3) 赤痢多發部隊ノ宿營地ハ特ニ青果(桃李)ノ出廻

リ多カリシコト

持ニ第ニ擧ゲタル青果ハ善意義大ナリシト判断セラル

口師團ハ過敏揚子江流域地區ニ長期駐留シテス性疾患

ノ蔓延ニ慥子レ當時其ノ原因ニ就キ頻ニ研究シ或ハ隊内

續發ニ或ハ外部ヨリノ移入ニ原因ヲ求メ種々論議檢討

シ凡テ防護新策ヲ考究シ眞剣ニ之ヲ實行ニ移シタル

ニモ不拘殆ド成果ノ認ムヘキモノナリ甚ク困難シタリシ其

ノ後湖南省ニ移ルニ及ビテ、テラス性疾患ハ殆ド問題トスルコト
ナク消滅シタルモ他方赤痢性疾患ニ於テ大ナル侵襲ヲ蒙
レリ由是觀之軍隊防疫ノ大部分ハ殆ド凡テ環境條
件ニ左右セラレ原因ヲ外部ヨリノ侵入ニ求ムベキモノ
リト推定シ得ベシ

ハ師團ハ湖南省移駐以來概ネ一年半ヲ経過シ最近其
一部部隊ニ就キ糞便中ノ原虫及寄生虫卵検査ヲ實
施セルヲ以テ其成績ニツキ主ナル保有者ヲ觀ルニ蛔虫七
六〇〇% 赤痢アメーバ一六〇〇% 大腸・沃度・矮小アメーバニ
於テハ夫々三九・九六%、一〇・〇〇%、九・五六%ニシテ、チアルデア
ニ於テ一・二〇〇%ヲ示セリ尚之ガ詳細ハ別紙第一ノ如シ
又集結地附近部落ノ中國住民ノ一部ニツキ、トラホーム、
ニ血型分布ノ状態ヲ調査スルニ「トラホーム」ノ罹患ハ尠小者
ヲ除キ殆ド全員ニ存シ又血型ノ種類分布状態及人數

0862

係數ハ別紙第二如ク 型尤モ少ク人種係數ハ

テ

夏季集結間ニ於ケルコレラニ防疫準備

イ、コレラニ防疫準備ヲ爲ス實施セル主ナル事項左ノ如シ

イ、各隊ヲシテ住民間ノ疫情偵知、魁メシム(郷保甲等トノ
連繫、掃蕩、物資収集等ノ機會ヲ利用スル情報収集)

軍醫部長ハ各隊ニ對シ防疫巡視ヲ實施シ直接大隊長
中隊長等ニ對シコレラニ情報収集ニ關シ教育ヲ實施ス

ロ、コレラニ防疫演習ヲ實施シコレラニ關スル教育ヲ深刻
ナラシムト共ニ發生時ニ於テ迅速適切ナル處置ヲ習熟セシ

ム(細部ハ次項)

ハ、師團ノ移動間ニ於テ患者發生ヲ顧慮シ衛生隊、野戰
病院一部及軍醫部勤務班ノ行動間防疫擔任部隊
ト指定シ當該部隊人員ニ對シ特ニコレラニ予防疫種ヲ

0863

毎十日ニ一回(一回五死絶)連續四回實施セシメ又行動
間發生患者ノ輸送收容等ニ関シ予メ教育ヲ實施ス

ハコレヲ防疫演習

イ. 實施方法

通常中隊ヲ單位トシテ實施ス中隊長以下幹部及道番
勤勞者ヲ實施シ中隊全体ヲ概本平常通ノ状態ニ在リ
シタル儘演習ヲ開始セリ即チ某兵ニ對シ。上等兵(一
本人)ハ。月。日。時頃ヨリ俄ニ下痢。嘔吐ヲ催シ現在道
ニ下痢。嘔吐。回。下痢ハ漸次米泔汁様トナリ現在全身
ニ力無ク腓腸筋ノ痠痛亦ナク来シアリ等ノ記載紙片ヲ與ヘ
或ハ其ノ戰友ニ對シ。上等兵ハ本朝来頻ニ便所ニ赴キ且
先刻班内ニ於テ嘔吐セリ等ノ記載紙片ヲ與ヘ此ノ想定。下ニ
状況ノ開始シ指揮系統若クハ道番系統ニ依ル之ヲ報告
通報。各級隊長ノ惣急處置。防疫指揮。適否等ヲ觀

0864

察指導等

口、著眼矣

(1) 患者發生時報告及現況把握、迅速

(2) 患者發生時報告後之、對スル應急處置、際ニ如何

ニシテ中隊他部ノ汚染ヲ防止セントシアリヤ

(3) 隔離範圍ノ決定、隔離ニ伴ヒ必要ナル處置ヲ決メテ其實

施シアリヤ

(4) 患者ノ診斷及看護後ノ汚染場所及物件ノ消毒方法

(5) 防疫指揮隊ノ主動的ナリヤ否ヤ 等

ハ、演習指導上ノ所見

(1) 狀況現示ノ方法困難ニシテ勸ニスレバ作リモレニ墮シ易シ

(2) 狀況ハ演習部隊ニ於テ局部的ニ進展シ全般のニ散漫スル

演習ニ流レ易シ

(3) 防疫知識ノ徹底、處置、演練等衛生講話ノ如キニテハ

0865

求メ難キ効果ヲ收ムコト得

川成果

夏季集結間防疫準備ニ努力シタル結果終戦後兵團ノ孫
此附近集結間ニ於テ軍内及佐民間ニ事實コレヲ患
生シタルモ各隊共佐民間ノ疫情偵知治發且軍内患者發
生ニ方リ且ノ發見及應急處置ニ般ニ迅速適切ニテ看過或
ハ狼狽等ノコトナク症狀發現後速ニハ二時間 遲キ十時間
以内ニ患者ノ處置後ニ部隊全般ノ防疫的展開ヲ完了シ隊内
ニ於ケル二次的續發ヲ防止スリ

(二) 防疫

ムマラリア患者發生狀況

昭和十九年十一月以來ムマラリア患者發生概數左ノ如シ

十一月	五〇〇	十二月	四〇〇	一月	二〇〇	二月	二〇〇
三月	二〇〇	四月	一〇〇	五月	一〇〇	六月	五〇〇

(稼野間)

七月 七〇〇 八月 八〇〇

最盛期は八月に於て月間發生數總員の約七%に達シテあり原虫
區分ハ三日熱約七割 熱帯熱約二割 混合型約一割ニテ四日
熱ハ一%に達セズ

新鮮マラリア對陳舊のマラリアノ比率ハ最盛期ニ於テ概ネ七
割三終熄期ニ於テ一割九ナリ

2. 駐留間防務工作

1. 實施状況

イ. マラリアノ前補給難ト蚊帳不足トノ状況ニ鑑ミ對蚊工事
ヲ最モ重視シ左ノ如ク夫ハ防務工作班ヲ編成セシメナリ

區	方	編	成	任	務
師團防務工作班	原隊部防務班	原隊部防務班	原隊部防務班	原隊部防務班	原隊部防務班
聯隊防務工作班	兵科防務班	兵科防務班	兵科防務班	兵科防務班	兵科防務班

大塚防務工作班	石、津、大	大塚東本館地区内ニ於ケル主要ナル防務工事
中塚防務工作班	將校一、下士官一、兵五、衛生兵二	中塚防務地区外細部ノ防務工作

備考 表中編成ハ概ニ基準ヲ示ス

日、實施セル防務工作ハ終熄期前ノ虫檢索最盛前期及最盛期ノ排水改善工事、下枝ノ伐採、燻煙等ニテ特異ノ事項ナキ對蚊工作實施ニ方リ特ニ採集器ヨリ蚊ノ分布及密度ヲ確メ之ガ日々ノ變化ニヨリ爾後ノ工作ニ檢討ヲ加フル始メ指導セリ

八、春季工作ハ逐次實施中ナリシガ未ダ蚊ノ發生ヲ見ケル中ニ作戦開始ニヨリ中絶セリ

二、作戦終了直後(三月)未ダ蚊帳ノ追送ナリ現地製蚊帳ノ收集亦意ノ如クナラズ蚊帳ノ普及度全員ニ一ニ割ニシテ對蚊工事ノ最メ緊要トシラルニ節團ハ宛ニ築城及物資收集ノ爲全ク兵力ニ余裕ナリ防務工作班ハ殆ド有名無實トナレリ蚊帳、其ノ後逐次追送及現地品ノ收集等ニ依リ終戦當時

三六概不全員・充足スル程度ニ至レリ。
未燃煙ハ實施容易ナルモ効果局部的且一時的ナル故實施
ノ熱意上リ難シ

ii 教訓

警備作戰準備等ノ任務ヲ有スル部隊ニ於ケル防務對策ハ
蚊帳ノ内滑ケル精給ヲ以テ最モ緊要ナル事項ト見做スベシ
何トナレバ假ニ集結セル中隊ニ於テ宿營地周辺一軒^徑内ニ有
効ナル防務工作ヲ實施セントモ基礎工作ニ最初最低ニ
全兵力十分以上ノ勞力ヲ必要トシ爾後之ガ維持補修ニ
最低ニ箇分隊以上ノ勞力ヲ必要トスベシ斯ノ如キハ到底任
務ヲ有スル部隊ノ爲シ得ル所ニテズ佐民ノ協力ヲ以テ之ヲ行
ハシテ亦言フ可クシテ行ヒ難シ若シ小ナル兵力ノ努力ニ依リ或
程度ノ成果ヲ得タリトモ是其ノ地域ニ於ケル蚊ノ發生源
及隱棲所が偶々極々限局的ナリシニ因リタルベシ

0869

部隊ノ任務荷重シ防務工作ノ努力及其資材ニ十分ナル場合
ニ蚊帳ヲ全員ニ支給シ日没後一般ニ蚊帳ニ入ル如ク指導スルヲ
最モ有利トシ煙燻ヲ其補助手段トスヲ可トセン

3. 春季作戰間防務工作 一 實施狀況

1. 出發時全員ニ予防内服薬一箇月分(塩規一日〇・三〇リノ
ヲシテ毎十日〇・〇ニ)ヲ携行セシム 防蚊覆面ハ全員ノ二割
以下、防蚊手袋ハ同一割^合以下ニ於テ携行シテアリ
口・五月上旬迄ハ氣温低ク殆ド蚊ノ發生ヲ認めズ中旬頃
ヨリ漸ク蚊ノ發生顯著トナリメレドモ未ト著シク増加ヲ認
メテ師團ハ反轉作戰間ニ於テ五月二十日以後^合十日間命
令ヲ以テ全員予防内服ヲ實施セシメタリ
ハ蚊帳ノ使用(防蚊覆面及現地製蚊帳ヲ含ム)ハ全員ノ
二割以下、煙燻ノ普及度ハ概ネ九割程度ナリ

二作戦間及其直後「マリア」患者発生数極ノ少ク總
人員ノ一%以下ナリ 是作戦間例年ニ比シ氣温比較的低下
リシト予防内服ノ結果ニ依ルモト認メ得ベシ

ii 教訓

一、作戦間「マリア」予防内服ノ價值ハ至大ナリ併シテ薬
物ニ制限アル場合内服實施ノ時期ハ其ノ都度實際蚊
ノ發生如何ヨリテ定ムベキノミナラス作戦上ノ要求ヲ數量
ニ持テ退却及追撃ノ時期ニ優先使用スルヲ可トセン
二、防蚊覆面ハ炎暑甚クシカラル時期ニ於テハ其ノ使用ニ徹
底セシメ得ルモ蒸暑激シキトキハ利用困難且現行ノ防暑
襦袢ノ上ニ用フルトキハ縦ニ防蚊手套ヲ併用スルモ前膊
或ハ頸部一部露出シ目的ニ適合シ難キ 夏襦袢ノ
構造ハ防暑ノ觀点ト共ニ防蚊覆面同手套ト相俟テ
防蚊ノ目的ニ合シ得ル如ク考案スルヲ要ス

0871

三) 保育

1. 秋冬季集結間特別訓練隊ノ編成

方針

特別訓練隊ハ各聯隊ニ於テ設置セシメ其ノ收容數ハ步兵
聯隊ニ付概ホ一箇中隊ト規定セリ 特別訓練兵ノ選定ハ結
核素質者ヲ優先選出スルモノトシ 最近一箇年以内結核
性疾患罹患者、最近ソレ及應陽轉者及ソレ反應強陽
性者ヲ選定シ併セテ一般の体力劣弱者ニシテ特別訓練ニヨリ
體質体力向上ノ見込アルモノヲ編入セシメ訓練ニヨリ體質改善
ノ見込ナキ痼疾者或ハ單ニ慢性疾患ニヨリ重兵業ニ堪ナ
ル者等ノ編入ヲ避ケシメタリ

ii 實況

特別訓練兵ノ選定率竝ニ其ノ素質等ハ聯隊ニヨリ相當
大ニ懸隔アリ 訓練ハ一般ニ体操ヲ重視シ且内務指導等ノ

充實ヲ圖クルニ特別訓練ニ對スル熱意・教育課目編成
訓練ノ實際等々亦各部隊ノ關心ノ程度ニヨリ差異著シク
特ニ特別訓練隊長ノ熱意・識能ハ之ニ影響スル所至
大ナリ 特別訓練兵選定數 歩兵第百九聯隊 一三〇名 歩兵
第百三十三聯隊 七〇名 (内三〇名ハ大隊ニ於テ訓練) 特科隊
二〇一四〇名ナリ (歩兵第百三聯隊ハ他兵團ニ配屬中ナリ爲含ズ)
各部隊特別訓練兵中結核素質者ハ三分ノ一以下其他
ハ一般の体力劣弱者ニシテ、レウマチズ性或ハ營養養番系慢
性疾患患者等ヲモ若干混入シアリタリ

教育課目中体操ハ全課目ノ三〇一四〇%ナリ

結核予防ニ關スル醫學的管理ハ資料ノ關係上不十分ニシ
テ一般ニ醫學的檢診ノ外一部檢痰及血沈反應ヲ實施シ
且体力檢査ノ成績ヲ判断補助手段トシタルニ過ギズ

川指導

0873

本期間特別訓練隊ノ指導ヲ以テ保育ノ最重要項目トシ
リ指導上一般ニ改善ヲ要スト認メタル事項左ノ如シ

イ、隊長以下幹部ノ人選ニオリ兎角清新潑刺タル人物選
定ヲ惜ミ年長ノ應召將校健康上故障アルモノ等ヲ用
セシモノ多ク爲ニ教育ニ對スル熱意企圖心等ハ積極的傾
キアリ

ロ、各中隊ヨリ特別訓練兵ヲ選出スルニオリ合理的訓練ニヨリ
各種体力要素ノ向上ヲ圖ルヲ主眼トセズシテ宛モ中隊ノ「危
介者拂ヒ」ノ如キ觀アルモノアリタリ

ハ、教育方針極ニ重点ハ明確ナラザルモノ多シ即チ比較的短
期間ニ完成スベキ教練ノ到達目標ニ牽制セラレ指導方
針アリシ体操重視ニ徹底スルヲ得ズシテ後ニ消極退嬰應
スル傾向アリタリ又体操重視上稱スルモ單ニ基本体操反復
ニ止リ体操ヨリ各種体力要素ヲ合理的段階的ニ鍊成

セントスル著意ニ欲ケルモノナシ

IV 教訓

イ、五箇月間ノ特別訓練ヨリ各兵ノ体重、体力検査ニ成績等ハ顯著ニ向上シ、体力上ニ成果ヲ收メタルヲ確實ナルモ未ダ「強兵」ノ域ニ達セシメ得ザリキ。是期間ノ十分ヲラガリシト之ニ爲教育計畫ニ無理ヲ生ジ教育方針透徹セザリシト之因也。ト推測セラレ從テ特別訓練ヨリ戦闘上ノ要求ニ合スベキ成果ヲ得ル爲ニハ戰場ニテモ第一期基本教育ニ當初ヨリ初始ノテ概ス一箇年間ノ時日ヲ要スルモノト認ム

ロ、特別訓練隊編成以來、結核予防ニ重点ヲ指向スル如ク指導シタルニ選定セラレタル訓練兵中結核素質者其ノ半数ニ滿ラズ一般ニ師團ハ壯丁^出身地ノ結核浸淫度タルニ拘ラズ部隊内結核患者ノ發生數ヲ毎月發生肺結核患者ハ一〇―一五名(一%以下)具、他ノ結核性疾患患者モ亦

0875

略、同敷ニシテ是中支ノ地理的、氣象的條件、因ルモノ思
考セラル、及之湘桂作戰以降補充兵ノ體質著ク低下シ
榮養失調性體質甚ク多ク之、因ル戦力減耗ハ輕視
シ得タルモノナリ、終戦前一年間ニ於ケル師團ノ現況ハ常々
獨リ精核ヲ防對策ノミナラズ更ニ榮養失調性體質ニ爲
減耗著シキモノアルニ鑑ミ之ガ予防又ハ改善ヲ重視スル可
カラザル状態ニ在リタリ、然シテ之ガ解決ハ特別訓練隊
又ハ中隊ニ於ケル特別訓練班ノ設置等ノミテハ未ダ達成
シ期ニ難キ程度ニシテ寧ロ教育中隊全体強弱ニ區分シ
弱キ一半ニ對シテ廣ク特別訓練的方法ヲ應用スルヲ可トシ
タラン

又中隊長及特別訓練隊長保育教育

一 實施狀況

昭和二十一年三月上旬師團司令部於テ二日間ニ亘リ中隊長及

特別訓練隊長保育教育ヲ實施ス 教育擔任官軍醫部
長 教官 參謀一 軍醫部員一 部隊長 二 參謀部附
將校一 專習員ハ 步兵隊隊長ニ付中隊長三名ノ割合ニテ各隊
隊長中隊長各一名ニ付特別訓練隊長全員ヲ召集セシメテ
教育前予ノ指定セル專習員ヲシテ課題作業ヲ實施セシ
メ教育ハ教官及專習員各全員ニシテ懇談ノ形式ヲ採リ主ト
シテ訓練内務隊ニ作戰間ニ於ケル保育・就キ前記課題問題
ヲ中心トシテ指導セリ

ii 成果
教官 專習員相互ニ大々ノ体験ヲ基礎トシ相研磨シ實際的
問題(即チ業間保育上遭遇スル各種困難)其ノ解決策
為中絶ナリ

0877

等)ニ関シ深ク考究スルヲ得ル

尚本教育ニ於テ指導セシ作戰間ニ於ケル保育ハ其ノ後久シク

ラズシテ春季作戰開始セルヲ以テ有查ナリヤ左ニ其ノ指導内

容ヲ附記ス

イ.部隊就着時部署ノ適切法ニ監督ニ同密ニシテ休養時間ノ

増大

ロ.休養時間ノ延長ニシテ急激變時間ノ規正法ニ徴發統

制

ハ.戦力温存ノ爲第一線兵力ノ可及的節減又之に伴ヒ戦闘

時期時刻等ヨリ部署ノ変更

ニ.負傷量ノ適正指導

ホ.作戰間兵力實情把握ノ方法法ニ作戰間各時期ニ於

ケル多發疾患ノ研究及其對策

等

3.陣地構築ニ於ケル保育

i 指導

春季作戦終了後夏季三箇月間、於ケル師團ノ最大任務ハ陣地構築ニシテ此ノ間作戦後疲労力回復ノ十分ナル余裕ナク他方又全般的ノ糧秣収集容易ナラザル状態ナレバ之ガ爲相當ノ兵力ヲ殺グル、ミナラズ給養状況量質共ニ良好トナリシニ鑑ミ集團疲労ノ發生ヲ顧慮シ左ノ如ク指導セリ
イ. 各兵ノ体力、應ズル作業ノ種類及量ノ適切ナル區分ヲスコト

ロ. 各兵ノ作業又ハ任務ノ差異ヨリ給養量ヲ公平ニ區分スルコト
ハ. 作業ノ経過ニ伴ヒ兵ノ体重又ハ体力ヲ推移ヲ連續的ニ觀察シ集團疲労ノ發生ノ徵候把握、勉ムルコト
ニ. 作業力價及給與熱量ヲ測定シ之ガ調整ヲ圖ルコト 等

ii 實況

構築スベギ陣地ノ深度ニ関スル要求大ナリシニ比シ作業ニ充テ

ラレル期間短小ナリシト致シ糧秣收集等ニ爲庫地構築等ニ專
念セシムベキ兵力ニ不足シ来シテクコト等ニ爲前記各種對策ハ
殆ト著意シタルニ止マリ保省指導ニ受動ニ忍レリ是に對シテ
師團ノ作業力其ニ他給養狀況等外ノ諸條件ヲ顧レバ
一面止マシ得ガクシ結果ナルベシ作業ハ一日概テ一四時間午
後ノ炎熱時ノ作業ヲ中止シ午睡ヲ實施セシメ早晚及夜間作
業ニヨリ能率ヲ高メテリ作業部隊對スル給與熱量ハ二八〇〇
三〇〇〇カロリーナリキ斯ノ如ク作業相當強度ニシテ之ニ對スル給養
不十分ナリシニテ尙ラズ作業前後シ通ジ之ニ基因シテリト認ムベキ
多發疾患ノ發生ナリ集團疲勞ノ全般の体力低下等ノ徴候
モ亦認めザリキ是蓋シ隊長ノ率先重範ヨリ士氣自印揚故
ニ戦局認識ヨリ精神要素ノ充實等ニヨリ好結果ヲ来シテ
ルモノナラン然レドモ作業ニヨリ一般ニ行軍力ハ低下シタルモノ如ク
本期間ニ續キ戦面收縮ノ爲メ機動ニ於テ異常ニ多數ニ行

軍忠死者ノ發生セリ

四. 患者發生ノ狀況

(一) 戦傷・戦病及傳染病毎月患者發生數及其ノ比率

月別	戦傷	戦病	傳染病	計	平均日死亡患者數	毎千平均日現在患者數
昭和十九年十一月	(二五〇)	(一四六)	(六三)	一、六〇〇	三三五	二一〇
十二月	(三三〇)	(九三九)	(六〇)	一、九〇〇	三二〇	二〇〇
昭和二十年一月	(三五〇)	(九二四)	(一〇八)	一、三〇〇	二七五	一七〇
二月	(四三〇)	(九一四)	(一〇八)	一、二〇〇	二六〇	一六〇
三月	(五七三)	(九四七)	(一〇四)	一、三九五	二九〇	一八〇
四月	(七二〇)	(九四〇)	(一〇四)	一、六六四	二八〇	三〇〇
五月	(九三〇)	(一〇五)	(一〇七)	一、〇四二	五三〇	四四二
六月	(二四三)	(九七九)		一、二二二	三八六	二四七
七月	(二四〇)	(八六〇)	(一〇〇)	一、〇〇〇	五〇〇	二七〇
八月	(三七〇)	(八三三)	(一〇三)	一、一〇〇	五二〇	二八〇

0881

備考 一、六月分ヨリ除キ總テ概數トス

二、指孤内數字ハ月間新患計ニ對スル百分率トス

(一) 部隊行動ニ基キ患者發生ノ特徵

(1) 昭和十九年秋以降作戰後集結時ノ回歸熱患者多發

(2) 昭和二十年春季作戰ヨリ戰病減少

(3) 同年夏作戰後集結間、於テ赤痢患者多發等ノ外、著シキ

特徴ナシ之ガ對策及其ノ成果ニ関シテハ防疫ノ項ニ記述セリ

(三) 患者輸送ノ狀況

春季作戰及轉時ニ於ケル患者輸送

春季作戰進攻後山岳地帯ヨリ及轉スルニ方リ當時師團ノ擁塞シ

患者數ハ概スハ〇〇〇ニテ之ガ輸送ハ後方處理事項中ノ最大難事

ナリシモ師團保有ノ全輸送機關ヲ擧ゲテ優先的ニ患者輸送ニ當

ズルノ最後收容線ニ到達セル際ニ於テハ一、一〇〇名ニ達シタル患者ノ

輸送ヲ先達セリ

即ち患者輸送ニ使用セシ部隊ハ衛生隊擔架一甲隊及同臨時
編成擔架一小隊・師團輜重(駄馬三甲隊)兵站輜重二大隊(一
駄馬計五甲隊)及患者輸送隊擔架一小隊ニテ輸送距離約百軒
患者輸送區分ハ擔送三〇〇馬送七〇〇独歩一〇計約一、〇〇ナリ擔
送ハ大部分ハ苦力ヨリ二乃至三人擔任ヲ以テテリ、反轉間最も困難
シ極メシハ師團ノ右側ヲ進撃^撃シ連互セル山地内ニ突進後優勢ナル
敵ノ包圍ヲ受ケタル一隊(以^以跡基幹)ノ患者處理ニテ同隊反轉
開始時ニ於テ携行患者數ハ三六〇名ナルニ對シ配屬輸送部隊
ハ衛生隊擔架一小隊過^過ギズ依^依テ當初ハ區間及復輸送ヲ實
施シテ前進シタルニ敵ハ反轉路上隨所ニ於テ之ヲ扼シ四周ヨリ狭
撃ヲ加ヘ来リ時日ノ遷延ト共ニ益々其ノ壓力ヲ増大シタルヲ以テ遂ニ
同隊ハ患者ヲ其ノ所屬大隊ヲニテ携行セシムルニ決セリ斯クシテ各火
隊ハ全力ヲ撃ゲルニ任セシ状態トナリ敵ト遭遇セバ擔架
ヲ置キテ交戦スル等大ナル困難ヲ克服シテ、前進ヲ續ケ約十日ノ後

0883

始テ師團主力ニ合シ茲ニ當時既ニ六〇〇名トナリタル患患者シ師團
後方機關・轉送スルヲ得テ此ノ間傷者ニテ戰友ノ辛勞ヲ見兼
不能烈タル自決ヲ決行セシモノ五ノ名ヲ下ラズ又下肢軟部創患患者ニ
シテ独歩スルモノ上肢骨折創患者ニテ自ラ馱馬ヲ馱シテ前進セルモノ
等稀ナラス

五 一般衛生状況

(一) 被服

昭和二十年一月上旬迄ハ夏季被服ヲ繼續使用シタルモノ爾後ハ冬
季被服ヲ支給セシメテ此ノ間寢具・追送ナリ一般ニ湘桂作戰以
來携行セシ僅少ノ毛布ノ外現地番團ヲ充當セシ程度ニ止マレリ
春季作戰ハ夏季被服(程度良好)ヲ以テ實施セシモノ終戰時ノ
被服ハ其ノ程度稍々衰損シ来レリ

(二) 給養

秋冬季集結間ノ給養状況ハ因類少ク又野菜類ハ甘藷之主

トシ変化ニ乏シカリシモ概テ糧食ノ取得困難ニテ略々三、四、五日
リ、給シタリ作戦間ノ給養ハ主食ノ收集概テ容易、肉類
野菜モ亦豊富ナリシモ山岳地帯内ニ於テ一定期間ハ主食共
ニ乏シ甚シキハ三日間殆ト絶食ノ状態（三日目ニ生米約一握リヲ
食ス）ニアリタル部隊アリ

夏季集結間ノ糧食取得ハ一般ニ困難ナズ端境期ニ於テ主食
ハ定量約六〇〇瓦副食ハ肉類・乏シク野菜類モ亦南風ノ主トシ
タル單調ナルモノニ終始ナリ此ノ間某大隊ノ如キハ集結地移動後
主食一日量一八〇瓦ニテ且三食共粥食ヲ以テ約二週間繼續
セシコトアリ尚各別ニ通ジ食塩不足ニ調味料ハ現地ノ唐辛
子ヲ以テ代用ナリ

(三) 宿營

一般ニ村落露營ヲナシ駐留數日以上ニ及バハヤ夜等ヲ以テ揚
床シ窓ヲ開キ採光ヲ計リ排水ヲ改善シ炊事場ヲ補修シ便

0885

所ヲ新設スル等環境ノ改善ニ努メタリ

(四) 給水

衛生濾水機ノ使用ハ極小部分ニ限ラレ大部ハ泉ニ者ニ濾後使用ニ依レリ 集貯地・作戦地共ニ小川・池・湖等比較的利用スベキ水源ニ富ミ水質ハ一部湧水ヲ除ク外多クハ微濁ニ且硬度大ナリトモ加礫沈澱・濾過等ノ施設ヲ施カズニテ使用ニ堪ルモノ多クナリキ

0886